

第2学年道徳学習指導案

日 時 平成24年11月14日(水) 5校時
対 象 男子 7名 女子5名 計12名
指導者 八重樫 晃生

- 1 主題名 相手の気持ちを考えて <内容項目 2-(2) 思いやり・親切>
資料名 公園のおにごっこ(出典 学習研究社「みんなのどうとく 2年」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領の道徳の内容 第1学年及び第2学年の2「主として他の人とのかかわりに関すること」の(2)に「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。」と示されている。

「温かい心」とは、相手の立場を押し量り、自分の「思い」を相手に「遣る」こと、つまり自分の思いを相手に向ける「思いやり」に通じる心である。そして、思いやりは、他の人とのかかわりにおいて、誰もが必ずもちたい基本的な姿勢、心である。この心があつてこそ互いに明るく豊かな社会生活ができると考える。それは、具体的には相手の身になって考え、相手をよく理解することから始まる。そして、相手を温かく見守り接することや、相手の立場に立った励ましや援助などの親切な行為として表れることが期待される。

低学年の児童は、漠然と「優しい人」になりたいという思いを抱いていることが多い。その一方で、実際には他の人のことにまで意識を向けられないことが多く、自分本位に行動してしまう傾向がある。そこで、この時期の児童に、まず周りの身近な人に広く目を向ける姿勢を育てることが重要である。そして、目を向けた人のことを考えて温かい心でかかわり、接しようとする心情を養うことが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 児童について

学級の子どもたちは、12名という少人数であるため、互いのことを分かり合って生活しているように思われる。学級作りにおける日常的なグループ学習や当番・係活動、遊び等の中で、友だちとよりよくかかわりながら活動しようとする様子や、初めての下級生である1年生のよい手本になって、困っていることなどは親切に助けようとする姿が見られるようになってきた。しかし、自分本位な行動もまだ見られ、周囲の人に広く目が向いているとは言えない。また、学級の友だちどうしの日常的な関係を見ると、相手への温かい心に欠ける言動も見られる。

そこで、周りの人々に広く目を向けさせながら、相手に温かい心で接するとはどういうことなのかを話し合わせ、親切な行動について考えることにより、身の周りの弱い立場の人や困っている人に温かい心をもって親切に接しようとする心情を育てたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公しんじたちの遊びに加わろうとした、足に不自由のあるゆうたへの接し方をめぐって、しんじたちが本当の思いやり・親切について考えさせられるという話である。

公園いっぱい鬼ごっこをして遊んでいたしんじたちに、足の不自由で思うように走れないゆうたが「入れて」と言ってくる。それに対し、しんじは「審判をしてもらおうか」と言ったが、よしえが「かわいそう」と言うのでゆうたを入れて遊び始める。しかし、おにになったよしえやみんなは、ゆうたのことをつかまえようとしなかったため、ゆうたは自らおにごっこから外れてしまう。みんなは考えて、もう一度ゆうたを誘っておにごっこを再開するが、おにになったしんじが勢いあまって、ついゆうたにタッチしてしまう。しんじは「しまった」と思うが、ゆうたは急に元気になって、みんなを力いっぱい追いかけて始め、その姿を見たみんなもだんだん楽しくなり、夢中で遊び続ける。

本資料は、「審判をしてもらおう」というしんじの考えや「かわいそうだから入れて、追いかけない」と考えたよしえの行動を発端にして、再び遊びに誘ったときの考えや元気に遊ぶゆうたの姿を見たときの思いを考えさせることにより、本当に相手の立場に立って考え、行動することの大切さに気付かせることのできる資料である。

(4) 指導にあたって

「導入」の段階では、資料として保育園訪問時のビデオ映像を提示することにより、交流で気をつけていたことを実感をもって想起させ、幼い人との接し方に関わる学習として、本時でねらいとする価値への見通しを持たせたい

「展開前段」の段階では、興味・関心を喚起するとともに、場面の状況把握がしやすいように資料を紙芝居形式で提示し、感想をもとに場面を確かめ、深めたい場面の話し合いに生かせるようにしたい。

そして、主人公しんじたちの行動や気持ちを共感的に考えながら、ねらいとする価値を追究・把握していく。中心発問では、しんじたちの行動について客観的な視点で話し合わせることにより、温かい心でゆうたに接し、親切にしたことがゆうたの姿を変えたことをとらえさせたい。そして、話し合いの中で発言の根拠等を切り返すことにより、場面ごとにつかませたい価値や内容を深めさせたい。

「展開後段」の段階では、資料を通して追究・把握した価値について、本時の学習で学んだことを道徳ノートに書かせ、ねらいとする価値についての児童一人一人の考え方や気付きを評価する手がかりとしたい。また、机間指導による意図的指名での発表では、できるだけ前向きな内容を中心に取り上げ、実践化への意欲付けにつなげたい。

「終末」の段階では、ねらいとする価値にかかわる友だちの作文を読み聞かせ、教師が補足して価値付けることにより実践化への意欲付けとしたい。

(5) 他の教育活動との関連

〈 道徳の時間・他の教育活動 〉

〈 子どもの意識 〉

事前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科「動物公園見学」(9/14) 一緒に行動する1年生のことを考えて、親切に接する。 ○ 敬老会(9/17) お年寄りに喜ばれるように、踊りを練習して発表する。 ○ 学習発表会(10/20) 困っている時は互いに助け合って練習し、発表する。 ◎ 生活科「保育園の友だちとふれ合おう」(10月第4週～) 保育園を訪問し、交流することにより、学校生活を紹介する次回の訪問の仕方を考える。 ◎ 学活「せいざチャレンジ」(10月下旬) 学級に「親切の星」を増やし、「せいざ学級」のつながりをめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生やお年寄りに親切にしよう。 ・学級の友だちに親切にしよう。 ・身近には親切にしたほうがよい人がたくさんいるんだなあ。 ・保育園の友だちにはどう接すればいいのかな。
本時	<p>道徳の時間(11/14)本時 主題名 相手の気持ちを考えて 資料名 公園のおにごっこ ねらい 身の周りの弱い立場の人や困っている人に温かい心で接し、相手のことを考えて行動しようとする心情を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・弱い立場の人や困っている人に温かい心で接し、親切にすることはとても大切なことだなあ。 ・今までの自分はどうだったかな。 ・これからの行動に生かそう。
事後	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 生活科「保育園の友だちとふれ合おう」(11月第3～4週) 2回目の保育園訪問で、学校生活のことを紹介し、伝える。 ○ 児童会集会活動(11/20) 同じ縦割り班の1年生に親切に接しながら活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班の1年生のことを考えて親切に接しよう。 ・保育園の友だちのことを考えて親切に接しよう。

3 本時の指導

(1) ねらい

身の周りの弱い立場の人や困っている人に温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を養う。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主発問 (○中心発問)	期待する児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1 御所保育園訪問を想起して、話し合う。 ・どんなことに気を付けて交流しましたか。	・ボールをやさしく投げたり、蹴ったりした。 ・縄をゆっくり回した。 ・スピードを加減して追いかけた	・資料として保育園訪問時のビデオ映像を提示することにより、実感をもって体験を想起させ、価値への方向付けにつなげたい。
価値の追究・把握 27分	2 資料「公園のおにごっこ」を読んで話し合う。 (1) しんじたちがしたことや気持ちについて、どんな感想をもちましたか。 (2) ゆうたに「しんぱんをしてもらおうか」と言ったしんじや追いかけてよしえは、どんな考えだったのでしょうか。 (3) しんじたちは、ジャングルジムの方に行ってしまったゆうたをどんな思いで、もう一度誘ったのでしょうか。 (4) 張り切っているゆうたを見て、しんじたちはどんな気持ちになったのでしょうか。 ◎ しんじたちのどんなところが、ゆうたの姿を変えたのでしょうか。	・ゆうたが「入れて」と言ってきて、困っただろう。 ・しんじたちは、ゆうたを遊びに入れてあげてえらい。 ・ゆうたも元気に遊ぶことができ、よかった。 ・ゆうたはみんなと同じように走れないから、おにごっこは無理だろう。 ・ゆうたがおにになったら大変だから、つかまえないようにしましょう。 ・ゆうたのことを考えず悪かった。ゆうたにも楽しく遊んでほしい。 ・今度は、ゆうたのことも追いかけるようにしましょう。 ・でも、おにになると大変だからつかまえないようにしましょう ・ゆうたはこんなふうにして遊びたかったんだ。 ・ゆうたが、元気になってよかった。うれしい。 ・ゆうたのことを遊びに入れてよかった。 ・しんじたちが、ゆうたのことを考えて遊びに入れたところ ・ゆうたのことを考えて、遊び方を変えたところ ・しばらく考えて、もう一度ゆうたを誘ったところ	・児童には思考の手がかりとして副読本を持たせるが、資料は紙芝居形式で教師が読み聞かせ、感想をもとに場面を確かめ、深めたい場面の話し合いに生かせるようにしたい。 ・しんじもよしえも、自分なりにゆうたのことを考えてしたことであることを確かめ、二人の親切はゆうたへの温かい心から生まれた行動であったことをつかませたい。 ・自分たちは親切のつもりでした行動が、実はゆうたを傷つけていたことに気づき、ゆうたの気持ちをよく考えて再度誘った温かい心をとらえさせたい。 ・温かい心で誘ったゆうたが張り切っている姿を見て、嬉しさを感じるとともに、自分たちがしたことに対する充実感を覚える気持ちに共感させたい。 ・ゆうたのことを考えるしんじたちの「温かい心」とそれにもとづく「親切な行動」が、ゆうたの元気な姿につながったことをとらえさせたい。 *しんじたちの何がゆうたを変えたかを考え、温かい心にもとづく親切な行動の大切さを把握することができたか。(発言) ・板書を活用し、資料を通して学習したことを確かめる。
展開後段 12分	3 ねらいとする価値について学んだことを考え、発表し合う。 ・今日の学習で学んだことは、どんなことですか。	・敬老会で、お年寄りに喜んでもらえるように踊った。 ・1年生に親切にすることができた。 ・学級の友だちに、優しく親切にすることができた。 ・保育園訪問で、親切に接することができた。	・道徳ノートに書かせる。 ・机間指導で、今後への前向きな振り返りを促す。 ・机間指導で個々の振り返りの内容を把握し、意図的指名も取り入れて前向きな内容を中心に取り上げることにより、実践化への意欲付けにつなげたい。

		・これからも相手のことを考えて、親切にしていこう。	
終末 3分	4 ねらいとする価値に関わる子どもの作文を聞く。	・学級にもそういう温かい心で親切にしていた友だちがいるんだな。 ・自分もこれからの生活に生かしていこう。	・ねらいとする価値にかかわって、身近な友だちの実践例を聞かせることにより、価値を広げ、実践に向けた意欲を喚起したい。

【板書計画】

ほいく園のこうりゆう
こう園のおにごっこ

ゆうた
・大けがで、みんなと同じように走れない。
「入れて。」

しんじ
・しんぱんを
よしえたち

・おいかけようとしない。

場面絵②・③

場面絵①

○ゆうたのことを考えた
あたたかい行動（親切）
「どうして やめちゃったのかな。」

みんなは だまりこんで

しばらく考えこんだ

・おいかけられなかったのが いやだったんだな。
・こんどは、ゆうたのことも おいかけよう。でも、つかまえないように しよう。

ゆうたがはりきっているのを
見て、みんなも楽しくなって

・元気になって よかった。
・はり切っていて たのしい。
・ゆうたのことを あそびに入れてよかった。

場面絵④

ゆうたのことを考える心と
親切なところ

4 資料分析

(1) ねらい 身の周りの弱い立場の人や困っている人に温かい心で接し、相手のことを考えて親切にしようとする心情を養う。

(2) 資料名 「公園のおにごっこ」(出典 学習研究社「みんなのどうとく 2年」)

主な場面	公園でしんじたちがおにごっこをしていると、けがでうまく走れなくなった幼稚園児のゆうたに「入れて。」と言われ、しんじはちょっと考えて「しんぱんをしてもらおうか。」と言うが、「かわいそう。いっしょにやりましょう。」と言うよしえの言葉でゆうたを入れておにごっこを始める。	しかし、よしえは、ゆうたに近づくと急に向きを変えて、ほかの友だちを追いかけた。ほかのみんなも、ゆうたのそばに行くと、わざと走るのをおそくしてゆうたをつかまえようとしなかったので、ゆうたは遊びから外れてしまう。	「どうしてかな？」とみんなはだまりこみ、しばらく考えてからもう一度ゆうたを誘い、おにごっこを再開する。	おにのしんじが勢い余ってゆうたにタッチしてしまうが、ゆうたは急に元気になってみんなを追いかけ始める。ゆうたがはりきっているので、みんなもだんだん楽しくなり夢中で鬼ごっこを続ける。
登心場の人動物きの	<ul style="list-style-type: none"> ・思いっきり走って、楽しんで遊ぶぞ。 ・ゆうたが入るの？全力で走れないのに。 ・できるのかな。無理じゃないかな。 ・入ると、おもしろくなるかも。 ・審判をやってもらおう。 ・審判じゃあかわいそうだ。入れよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆうたがおにになったら大変だ。 ・わざと走るのをおそくして、ゆうたには、タッチしないようにしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてやめちゃったのかな？」 ・追いかけれないのが、いやだったのかな。差別したみたいで悪かったな。 ・ゆうたも、同じように追いかけてよう。 ・追いかけてもタッチしないでやれば、ゆうたも楽しんでできるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しまった。ゆうたがおにになると大変だ。 ・ゆうたが、急に元気になって力いっぱい追いかけてきたぞ。 ・ゆうたが張り切って遊んでいてよかった。 ・ゆうたの姿を見て、だんだん楽しくなってきた。
把握す状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公園いっぱいに広がっておにごっこ ・ゆうたは大けがをしてから、みんなと同じように走れません。 ・でも、友だちと遊ぶのが大すきです。 ・みんなは顔を見合わせました。 ・「ゆうちゃんには、しんぱんをしてもらおうか。」 ・「それはかわいそう。いっしょにやりましょうよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・よしえは、ゆうたに近づくと、きゅうにむきをかえて、ほかの友だちをおいかけてました。 ・ほかのみんなも、ゆうたのそばに行くとわざと走るのをおそくしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゆうちゃんは、どうしてやめちゃったのかな。」 ・みんなはだまりこんでしまいました。 ・しばらく考えたみんなは、もう一度ゆうたをさそい、おにごっこをはじめました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ついゆうたにタッチしてしまいました。 ・(しまった！) ・ゆうたは、きゅうに元気になって、みんなを力いっぱいおいかけてはじめたのです ・ゆうたがはりきっているの、みんなもだんだん楽しくなってきました。 ・しんじたちは、日がくれるのも気づかないほど、むちゅうでおにごっこをつづけました。
学習者の焦点意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ しんじもよしえも、自分なりにゆうたのことを考えてしたことであったことを確かめ、受け入れられなかったが、二人の親切はゆうたへの温かい心から生まれた行動であったことをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちは親切のつもりでした行動が、実はゆうたを傷つけていたことに気づき、ゆうたの気持ちをよく考えて再度誘った温かい心をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい心で誘ったゆうたが張り切って遊んでいる姿を見て、嬉しさを感じるとともに、自分たちのしたことに対する充実感を覚える気持ちに共感する。 ・ しんじたちがゆうたのことを考えて親切にしたことが、ゆうたの元気な姿につながったことをとらえさせたい。 	
基本発問	○ ゆうたに「しんぱんをしてもらおうか。」と言ったしんじや、追いかけてみようとしなかったよしえは、どんな考えだったのでしょうか。	○ しんじたちは、ジャングルジムの方に行ってしまったゆうたを、どんな思いで、もう一度さそったのでしょうか。	○ 張り切っているゆうたを見て、しんじたちはどんな気持ちになったでしょう。 ◎ しんじたちのどんなところが、ゆうたの姿を変えたのでしょうか。	